

東京農大 長和で山村再生プロジェクト

炭焼き窯づくり開始

技術伝承や体験学習、グリーンツーリズムに

東京農業大学の本年度第3回「山村再生プロジェクト」が8〜10日行われ、長和町大門宮ノ上の農作業準備休憩施設の敷地で炭焼き窯の造成に着手した。

同プロジェクトは同 大が長和町を実習の場

として地域活性化を試みる教育プログラム。町も連携し、同大と教育協力協定を結ぶ上田市の丸子修学館高校の農業科目選択生徒が参

加している。

炭焼き窯の造成は昨年度から計画している。今年2月に町が受けた、同町出身で東京都世田谷区在住の三浦嘉治さんのふるさと納税約80万円で2基つくることになっていた。

造成は武石炭人会（鶴岡一生活会長）会員の有志3人が協力。坂口茂寿さんが小型パワーショベルで設置場所の土を掘り、父の信茂さんと品川恒重さんが窯の壁面などに使う石の整え方などを指導。学生7人らと一緒に高さ約2m、直径約2mのドーム型の炭焼き窯の基礎工事を行った。

窯は今年9月ごろ完



炭焼き窯の床面にする部分に砂利を敷いた

成予定。長門林業後継者グループ（井出正三代表）などの指導で炭焼き用の木材を伐採し、今冬に白炭を焼く。町や同大は「技術伝承や子ども体験学習のための地域開放、グリーンツーリズムでの利用など有効な活用を考えていく」としている。

地元高校生や住民と交流も

圃場整備や野菜作付け……中山間農業を学ぶ

東京農業大学・山村再生プロジェクト



修景整備にあたる学生たち

【東信】東京農業大学の「山村再生プロジェクト」が昨年からのスタートした。3年がかりで復旧させた棚田（約4畝）の芹沢圃場を基幹圃場に、今年は畑（66・5畝）で約50種類の野菜、水田（6ヶ）でうるち米ともち米、長久保宿本陣の圃場では、13ヶで10種類の野菜の作付けを予定している。

4月から野菜の植え付けや米作りが始まり、夏・秋には

収穫した農作物を使ってみそ造りなど食文化も実習で学ぶ。同大学主催の「カレッジツアー」も開催し、一般客が学生たちと一緒に、季節に応じた中山間農業の体験を3回ほど予定している。

同大学食料環境経済学科2年の田崎萌子さん（20）は「山村プロジェクトに参加して、座学では、学べないことをたくさん学ぶことができた。初参加は1年前。芹沢圃場はますます活動しやすい場所となってきた」と話す。今年2月、

丸子修学館高校との間で教育協力協定を長和町で締結。「今後は、高校生とも交流を深め、町の方々との交流にもつながっていききたい。一人一人考える活性化の形は違うが、それら全部が凝縮された町になるように頑張りたい」と話す。

また、今回初めてカレッジツアーに参加した、法政大学教授・高見公雄さん（56）は、「学生たちと作業できる喜びと、中山間農業の良さを学生たちなどから学ぶことができた。また、行政が高校・大学と深く連携しているのにも驚いた」と話す。（丸山宏通）